

考えるべきときにきたと考えている。

日本では医療と研究は別物であって、それらを厳正に区別することでどちらも公正に行うことができるという考え方が強い。しかし、先に述べたように、人間の生のトレースすべてが医学研究の対象となる時代のなかで、本当にその2つの領域を分けることで、予防医学をも含めた医療が成り立つのであろうか。先の生命倫理学会の News Letter にも書いたのだが、“社会を野生動物である人間の動物舎として”考える思想に基づいてバイオバンクという考え方を導入すべき時期になってきたのではないかと考えている。バイオバンクが、研究者に都合のよい環境をつくるだけではなく、

ヒトの医療や医学研究へのかかわり方を変化させるものとして重要となっていると考えている。

■謝辞：本研究は、厚生科学研究費補助金“疾患研究のための生物資源の所在情報データベース等の構築と維持と関連する政策・倫理課題の研究”および“難治性疾患克服のための難病研究資源バンクの開発研究”によって助成された。

文献

- 1) 増井 徹：バイオバンクの現状と将来——ヒトを研究対象とするための社会基盤，日本臨牀，68：106-111，2010

* * *

